南アフリカ新聞号外④

SABONA

鈴木　壮太

今回は算数セット導入を視野に入れた活動についてです。

算数セットをぜひ使って欲しい！！しかし…！

算数セットの有用性について気付いてもらい、それを授業に活かしてもらえたら…。何か良い方法はないのか…。どうすればもっと使ってもらえるのだろう…。と、色々と考え、現地教員と算数セットを用いた授業を一緒にしたり、ワークショップを開いたりしながら、算数セットの良さを積極的に伝えていました。「これを使ったら児童も分かりやすそう！」「使い方が具体的に分かって良かった！」と、教員の反応が良いのは事実です。しかし、その後の授業で使われることはありません。前回の号外⑤では、算数セット導入についての課題を挙げましたが、それらの課題を知ることはできても、私一人では解決できないようなものも多くあります。実際、算数セットを使わない理由を教員に直接聞いてみると、「それを使うのは良いと思うけど、使う時間がない。」とのこと。確かにその通りだと思います。以前にも書いたことですが、こちらの教員は授業中にほぼ全ての事務作業（採点、添削、評価等）を行います。そのため、いちいち算数セットを使って指導していては、準備、片付け等含め多くの時間がかかり、何より教員にとって面倒ですし、事務仕事をする時間がなくなってしまいます。

【写真】算数セットを使う児童の様子（２年生）。担任の話を聞くだけでは飽きてしまします。具体物を操作すると、より意欲的になるうえ、数感覚を養いやすい。

国際協力は、効果がすぐに出るものではないので、何年も継続していくことが必要です。ただ、算数セット導入についての課題を解決しないまま、それの普及のために活動しても、現地教員の負担になってしまう可能性の方が高いことに加え、効果があまりに薄いと感じていました。つまり現段階では、算数セットの導入は現地の実態に合っていないのかもしれません。しかし、算数セットによって児童の学力が向上するのは明らかで、現地教員もそれを少なからず把握しています。もう少し私自身が何か良い方法を見つけられれば良いのですが…。うーん…。と、あれこれ考えたり、同期に連絡してアドバイスをもらったりしながら活動しています。

一日

私が算数セットを使うことで、児童の学力、意欲ともに向上させられることは良いのですが、「教員の算数指導力向上」という点では行き詰まっていました。そこで、逆に具体物をそこまで使わずにできる算数指導法がないかと考え始めました。今までやっていたこととは真逆のことです。算数セットを用いた活動を少し休憩しました。

そこで、号外⑤でも触れましたが、かけ算の指導をすることにしました。数感覚が乏しい児童には、足し引き算が優先だと思うのは確かです。ただ、かけ算の単元に入ったし、やってみようと思いました。

そして私はかけ算学習の授業を行いました。教員の反応は良かったです。その場でいつも良い反応をしてくれる同僚たちは何とも温かく、私も嬉しいです。「せっかくアフリカにいるんだし、挑戦したいことは何でもやっていいよ。」と言ってくれます。そのような言葉をもらって私は試したいことを色々とさせてもらっています。

話は戻りますが、かけ算の指導はそこまで複雑ではないため、現地教員にもできるのではないかと考えました。私が授業をした翌日にその教員と一緒に授業を行い、その後担任だけで授業をしてもらいました。その方のおかげで（色々な教員に広めてくれた）、かけ算指導の小ブームが起こり、現段階では複数のクラスで私が伝えたかけ算指導が実践されています。一過性のものではなく、ボランティアがいなくなっても継続していけると幸いです。もしかしたら継続してくれるのではないかと淡い期待を寄せることとします。【次回：かけ算指導の流れについて】